

武尚学友

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 7. 1 0. 6

発行ナンバー 1 2 2 0 号

(鈴木主将の代・・22号)

試合結果

9月28日(日)

対県立川越高校 4対16 敗退

対豊岡高校 3対9 敗退

10月5日(日)

対いずみ高校

市高は2年生が模試、いずみ高校は2年生が修学旅行のため、1年生同士で1試合行いました。

今季通算成績 19勝 21敗 1分

「準備」

埼玉県の秋季県大会は、優勝・花咲徳栄高校、準優勝・浦和学院高校という結果になり、この2校がこのあと行われる関東大会に出場するという形になりました。

市高の敗退後は球場役員として試合を間近で観ることができましたので、大いに勉強させていただきました。今回は学んだことについて簡単に触れたいと思います(公立高校の指導者が私立高校に勝利した際、報道関係の方に話していたことになります＝市高も学ぶべきこと)。

対私立強豪校の場合、「守備」に関しては、それまでの練習で(日々の練習で)ミスなく守れるようにしておくことが戦う上での絶対条件、ミスとはエラーだけではなく、投手の与四死球を最小限にする、バッテリーミス(ワイルドピッチやパスボール)をなくす、なども当然含まれる。それが今日の試合ではできていた・・・

対私立強豪校、評判の投手が相手に厳しい戦いが想定されても、すべてのボールが●●●キロではない。立ち上がり、カウントが打者有利になった時、ランナーが出た時、そういう時に投げられた(MAXでない)ストレートは弾き返せるよう練習してきた・・・(4回から登板した評判の好投手をその4回に連打でノックアウトさせました)。

番狂わせと言われるような試合も(それを起こす)準備がされているかどうかが大事であること。市高も番狂わせを起こしたい・・・と、いうことはその準備が必要なのです。

日々の練習＝準備

分かっていただけのでしょうか。

反応のよさ

上尾高校、熊谷商業高校、大宮東高校の3校が公立高校としてベスト8入りしました。当然、技術面も優れているのだと思いますが、私が大会役員として本部入りしていて、この3校の選手に共通していることについて考えると・・・

選手1人1人の「反応」が良い(行動に移るのが早い)ということになります。

例えば、試合前後整備等の時、試合終了後ベンチ内清掃の時、「ここを綺麗にして欲しい」、そんな声を掛けた時、返事をして行動に移るまでが素早いです。逆に考えて下さい。反応の悪さは(例えば返事をしないなどは)その後トラブルにつながると思いませんか?「オマエ、聞こえてんのか!」というような感じになる・・・

小事が大事、些細なことかも知れませんが、結果を出しているチームには(数字等には現れない)何かがあるものです。

考えてみて下さい。